

～産業・観光復興支援分科会 中間報告～

1. 今夏対策

めざすべき姿

- ・島で行っている安全対策をPRし、風評被害が払しょくされ、被災で来なくなった観光客が戻ってくる

- ・今回の災害の風評被害を払拭し観光客を呼び戻すとともに、受け入れる体制の整備を合わせて行っていく。

(1) 島に呼び込む

○今夏に向けた大島の魅力・安全性の情報発信

- ・観光目的の情報やイベントカレンダー、島で行っている安全対策など、観光客が知りたい情報のインターネットなどによる情報発信を積極的に行う必要がある。

《要望事項》

- ・情報提供の場の構築に向けた支援

○島外での復興キャンペーンの展開

- ・復興キャンペーンなどの島外での来島キャンペーンを積極的に展開し、島の魅力とともに、島の安全性・復興に向けた活力をアピールする必要がある。

○観光客へのインセンティブによる来島促進

- ・島外キャンペーンで配布するチラシに島内で利用できる商品券の引換券を付けるなど、観光客にインセンティブを与えることにより来島を促すことができるとよい。

《要望事項》

- ・観光客に対する誘致促進のための補助・助成、宿泊者への島内商品券の発行などの支援

(2) 島でもてなす

○被災した観光資源の早期復旧

- ・弘法浜を今夏に安全に利用できるように整備するとともに、メディア等を活用して、利用できることを積極的にPRする必要がある。
- ・使用できない場所や危険な場所は、観光客に周知する必要がある。

《要望事項》

- ・海開きまでに安全な弘法浜の整備
- ・広報などによる弘法浜の海開きのPR

○賑わいを取り戻すための場所・催しの実施

- ・復興への機運を高め、賑わいを取り戻すために、弘法浜においてイベント開催や出店などを実施できるとよい。
- ・農・漁業者による島の特産品などの物産展を、出帆港などで実施できるとよい。
- ・海水浴場の賑わいを取り戻すために、ビーチバレーコートなどの場所が設置されるとよい。

《要望事項》

- ・元町港や弘法浜の賑わいを取り戻すため、様々なイベントを実施するとともに、出店などで集まった観光客をもてなす。
- ・弘法浜のビーチバレーコートの再設置

○滞在中の役立ち情報の提供

- ・早朝に来島した観光客に朝食を提供できる店やキャンプのための食材が購入できる店、雨天時に立ち寄ることができるカフェなど、滞在中の観光客に役立つ情報を提供できるとよい。

2. 短期対策(1～3年)

めざすべき姿

- ・戻ってきた観光客が満足して帰り、リピーターとして繰り返し島を訪れる
- ・農・漁業者、中小企業者等、被害を受けた島内事業者の生活再建が進んでいる

- ・引き続き観光客の呼び戻しを図るとともに、来島した観光客をおもてなしの心で迎えることで満足感を与え、リピーターや口コミによる来島を促進する。
- ・被害を受けた農地や漁港・漁場の復旧と合わせて、島内の産業振興を活性化する仕組みを構築し、農漁業者・中小企業者の生活再建を図る。

(1)島に呼び込む

○島の魅力を伝える情報発信力の強化・継続

- ・観光客の様々なニーズに合わせた島の情報を分かりやすく継続的に発信していくことを検討する。
- ・特に大島ではインターネットを活用した情報発信力が弱いので、積極的に活用し、新しい情報を常に発信していく体制を構築できるとよい。

《要望事項》

- ・東京都の補助等を活用した町のホームページのリニューアル

○既存資源を活用した誘致推進

- ・大島の自然や地形など既存の資源を活かし、学生ランナーの合宿や研究合宿などを誘致するとともに、受け入れの基盤となる環境整備を推進する。
- ・近年増えているサイクリングという新たな資源を活用するために、駐輪場やメンテナンス拠点の整備を推進する。

《要望事項》

- ・トレーニング用の道路などのインフラ整備
- ・合宿者に対する支援（競技場などの施設の開放、温泉施設の利用支援）
- ・駐輪場整備に対する支援

○将来の担い手・働き手が移住しやすい環境づくり

- ・首都 東京から一番近い島という利点を活かし、移住希望者が入ってきやすい環境を構築する必要がある。

《要望事項》

- ・ 移住希望者向けの相談窓口の開設
- ・ 長期滞在型旅行（移住体験）の仕組み作りに対する支援
- ・ 島で起業する若者などへの支援

○島内企業の早期再建の推進

- ・ 被災によりダメージを受けた島内の活力を取り戻すために、直接的な被災者と合わせて、間接被災者の再建に向けた支援を行う必要がある。

《要望事項》

- ・ 間接被災者も含めた運転資金・設備資金融資の利子補給の検討

(2)島でもてなす

○復興に向けた活力を示す催し・仕組みの実施・継続

- ・ 復興に向けた島の活力を鼓舞するために、農業者や漁業者などが一体となった産業祭のようなイベントを継続的に実施できるとよい。
- ・ 地域おこし協力隊による観光振興や、岡田港と元町港の土産品売店の相互出店など、賑わいの創出や地域経済の競争による活性化を図ることができるとよい。

《要望事項》

- ・ 産業祭などの実施に対する柔軟な支援（場所提供など）

○大島の食材・素材を活用する仕組みの構築

- ・ 大島の食材を手に入れやすくすることで、島民や旅館・民宿などの宿泊施設で島の食材を積極的に使った食事を提供できるようにする。
- ・ また、大島の食材を使ったメニューなどを発表する場を提供できる仕組みを構築できるとよい。
- ・ そのほか、大島産の材木などを復興に向けた整備の中で活用し、島内で産業が活性化する仕組みを検討する必要がある。

《要望事項》

- ・ 地産地消の活性化を図る仕組みづくりに対する支援

○来島者をもてなすための施設の整備・改修および仕組みづくり

- ・ 現状では利用者が少ない火山博物館・郷土資料館において、天候に関係なく過ごせるように体験型展示やイベント開催など観光施設として活発な利用を促す方策を検討する必要がある。
- ・ 観光客や島民の誰もが利用しやすいように、バリアフリーを意識した施設や道路の改修・整備、散策路への分かりやすい案内看板の設置を促進する必要がある。
- ・ 早朝に船で来島した観光客をもてなすために、食料を購入できる自動販売機を設置するなど無人で対応できる早朝対策を検討する必要がある。
- ・ 景観に配慮し、使用されていない花壇の活用など来島者が気持ちよく過ごせる環境を維持する仕組み作りを推進する。

《要望事項》

- ・火山博物館・郷土資料館の観光施設としての利用拡大に対する検討・支援
- ・バリアフリー制度など、民間の施設改修に活用できる助成制度の充実化および既存制度のPR促進
- ・観光客や避難を考慮した分かりやすい案内板の設置の仕方の検討および整備
- ・花壇などをボランティアに管理してもらう仕組みの構築などに対する検討・支援

○島全体のおもてなしの心の育成

- ・おもてなしに関するアドバイザー制度などを活用し、大島における観光客に対する接遇の課題を明確にし、おもてなし精神の育成を図る必要がある。
- ・おもてなしの島と認識されることを目標に、事業者だけでなく子供から大人まで島民全体におもてなしの心が浸透するように意識改革を促す。
- ・島内で催されるレースイベントにおいて、一般参加者を島民が応援することにより、イベントを盛り上げられるとよい。

《要望事項》

- ・アドバイザー制度の活用に対する支援

○外国人観光客を迎え入れる環境の整備

- ・来島する外国人観光客が増加していることから、外国語の案内看板の設置や観光マップの作成など、外国人をもてなす環境を整備する必要がある。
- ・外国語に堪能な人の養成を推進し、外国人対応の強化を図る必要がある。

3. 中長期対策(4～10年)

めざすべき姿

- ・新たな島の魅力を創出・発信し、新たな観光客が訪れるようになる
- ・島の魅力が観光客に浸透し、移住・定住する人が増えている

- ・新たな産業・観光資源を発掘・創出し、島の魅力を発信していくことで、新たな観光客の獲得や移住・定住を促進し、島全体の活力を向上させる。

(1)島に呼び込む

○災害の記憶を留めるメモリアル的なモノの創出

- ・災害の記憶を忘れないために、写真展示や語り部などによる解説のあるメモリアルな施設・場所が必要である。
- ・被害の大きかった神達地区においては、被災者や地権者の意向を最優先に考慮したうえで、鎮魂・慰霊の意味を持たせた土地利用ができるとよい。

《要望事項》

- ・メモリアル的なモノの検討（短期対策として臨時的なモノの検討も含む）

○災害を教訓とし、その資源の活用

- ・ 今回の災害を教訓としつつ、災害・防災教育の先進的な場として情報発信し、新たな資源として島の大自然と合わせて有効に活用していくことを検討する。
- ・ 御神火スカイラインの復旧と合わせて、遊歩道機能を付加し、滑落した山肌を見せるのに積極的に活用することを検討する。
- ・ 活用に際しては、被災者の心情や被災地における安全性を考慮する。

《要望事項》

- ・ 元町から三原山山頂までの登山道の整備（御神火スカイラインも活用）

○大島の植生を活かした資源の活用

- ・ 大島の花木を使用した公園や散策道の整備など、大島の植生を活かした大島らしい空間を創出する。
- ・ また、一年を通して椿や桜、アジサイなどの花祭りのイベントを連続的に展開し、賑わいを創出する。

《要望事項》

- ・ 植物を管理する担い手の育成に対する支援
- ・ 観光資源的に問題であるチャドクガなどの害虫の抜本的な対策の実施・支援

○離島の良さを活かした移住促進システムの構築

- ・ 丸ごと自然という離島の良さを活かして、都会で疲れた人や田舎暮らしをしたい人が移住しやすいように、空家・遊休農地の斡旋事業の推進や就職場所の紹介を行うシステムを構築する。

《要望事項》

- ・ 空家・遊休農地の斡旋事業や就職場所の紹介に対する支援

(2)島でもてなす

○地域産業の活性化による新たな事業展開の促進

- ・ 島内の農漁業を活性化するために、大島の食材を積極的に活用した食事を、公共施設、教育施設などで提供できるような島内で循環する経済を構築する。
- ・ 椿油など大島産のブランド力の向上を図るとともに、イベリコ豚など新たなブランドの発掘するための人材の呼び込みや育成を推進する。
- ・ 農・漁・林・商工業と連携し観光業の活性化を図ることで、宿泊能力の強化など新たな事業展開を促進し、島全体でおもてなし力の向上を図る。

《要望事項》

- ・ 大島の食材による島内で循環する仕組みづくりに対する支援
- ・ 大島ブランドのPR支援
- ・ 農・漁・林・商工業と連携した観光業の活性化に対する支援

○定住促進する魅力ある島の創出

- ・ 地元の人間がいきいきと暮らせる島を目指し、移住者用の住宅整備や土地の提供など人口増加に向けた具体的な対策を実施する。
- ・ 高齢者社会に配慮した交通体系の充実や、安心して子供が遊べる海水浴場など全島民が安心・快適に過ごせるインフラ整備を推進する。

《要望事項》

- ・ 人口増加に向けた具体的な対策の検討・実施
- ・ 交通体系の充実に向けた検討
- ・ 子供が安心して遊べる海水浴場などのインフラの整備

	島に呼び込む(魅力の発信)	島でもてなす(魅力の向上)
今夏対策	◆今夏に向けた大島の魅力・安全性の情報発信<広報関係> ○観光の目的(食事、宿、温泉、アクティビティ等)の情報量(写真や説明)と更新頻度を増やす(ツイッター等活用) ○船や飛行機の就航率や週間予測等の情報を提供 ○盆踊り等地域情報も発信し、 島民との交流を図る ○観光特派員にDMの送付	◆被災した観光資源の早期復旧 ◎弘法浜の復旧 ◎弘法浜の海開きをPR ◆賑わいを取り戻すための場所・催しの実施 <イベント> ◎復興市場（出店者の公募、弘法浜プール跡地の活用）・復興朝市 ○出帆港にて農漁業者による物産展の開催 ○棧橋でのおもてなしイベントの実施 ○地域の盆踊り等も一緒に楽しむ ○海開きを特別なものに(島民総出など) △各地区青年団による太鼓・フラダンス・よさこい等の実演 ⇒出演料が発生する問題がある △棧橋での簡単釣り体験 ⇒港湾施設での釣りはNG <施設整備> ◎弘法浜でビーチバレー(ネットだけ張っておく) ○トレッキングコース・ハイキングコースの整備 ※大島灯台や乳ヶ崎への道の管理者を確認中 △サイクリングロード等の整備(リピーターの確保) ⇒整備が間に合わない △泉津の飛び込み台の再整備 ⇒海岸保全上、認可は厳しい ◆滞在中の役立ち情報の提供 ◎居場所の確保(特に雨天時)カフェなども積極的に周知 ◆その他 <接客向上> ○観光客への声掛け(来島者へ安心感を与えるため) ○笑顔での接遇 ○外国語の案内看板等の設置 ⇒各事業者の判断 ○現在行っているふれあい案内所?の拡大 <地産地消> △大島でとれる魚・野菜の提供(最新冷凍技術を活用) ⇒民間事業者が導入予定 ○大島牛乳＋寒天＋季節の果物で杏仁豆腐風の新しいデザート作り ⇒各宿のデザートとして卸す(経営者判断) <広報関係> ○夏まつりを利用しての観光客へのPR <交通> △バスのパスポート発行(青年・家族連れはレンタカーを使わない人も多い) ⇒事業者の経営状況および期間的な問題がある <その他> ○元町港等で魚介類、農作物等の島の特産品をサービス ○自然や島民と触れ合う ○C級グルメのメニューを宿で提供する
短期対策 (1～3年)	◆島の魅力を伝える情報発信力の強化・継続<広報関係> ◎情報発信力の強化、継続 ○四季折々の大島のみどころの発信 ◆既存資源を活用した誘致推進<各種誘致> ◎大学合宿誘致のため、各大学へ営業活動を実施 ○有名ランナーの招待 ⇒ギャラが発生する問題 ○テレビ番組などの誘致 ⇒既にかかなりのメディアで取り上げられている ○地域おこし協力隊の誘致 ○音楽イベント、 野外コンサートの開催 ○リピーターへ特典(10回来島で1回無料、または食事券や島焼酎の贈呈)	◆復興に向けた活力を示す催し・仕組みの実施・継続 <産業振興> ○毎月1回産業祭的なものの実施 ○観光資金集めのため、 伊東・熱海・小田原の競輪協賛看板掲示 <その他> ○地域おこし協力隊による観光振興 ○新岡田船客待合所に元町の土産品売店を出店、元町船客待合所に岡田売店を出店(賑わいも競争も生まれる) ◆大島の食材・素材を活用する仕組みの構築 <地産地消> ◎大島の食材を積極的に活用して食事提供(食材の説明付き) ◎民宿・旅館等の宿泊施設で島の食材を使った料理を提供 ◎大島の食材を使った料理(新メニュー、 これまでとは違うジャンル)研究 ◆島全体のおもてなしの心の育成 <接客向上> ◎『おもてなし研究会』の実施(アドバイザー制度) 掃除・接客等 ○あえて良くなかったところについてアンケート調査を実施 ⇒観光ニーズ調査の結果を活用 ○『あんこ姿』の復活⇒あんこ姿で店・宿泊先での接待 ◆外国人観光客を迎え入れる環境の整備 <接客向上> ◎外国語の案内看板の設置及び外国語地図作成(語学勉強会など) ◎外国語緊急通訳110番システムボランティアメンバーの拡充 ◎外国人客への対応
	島に呼び込む(魅力の発信)	島でもてなす(魅力の向上)

短期対策（1～3年）	◆将来の担い手・働き手が移住しやすい環境づくり ＜移住・定住促進＞ ◎長期滞在型旅行の仕組みづくり ◎移住希望者向けの相談窓口開設、情報提供。お試しで移住体験できる仕組みづくり ＜各種誘致＞ ◎島で起業する青年たちへの支援、呼び込み ＜産業振興＞ ◎体験型長期滞在プラン(農業、漁業等) ◎農業後継者対策 ◎空家・農地のあっせん ◆その他＜その他＞ ○災害を機に縁ができた専門家との定期的な勉強会・交流会 ○モニター募集してレポート等を提出してもらい、有効活用	◆来島者をもてなすための施設の整備・改修および仕組みづくり ＜その他＞ ◎火山博物館の活用(参加型の施設に) ＜施設整備＞ ○パームライン歩道部分の整備(現在の舗装は剥がれやすい) ○駐輪場の設置 ○岡田船待における早朝対策、自販機コーナー設置 ○街並み・景観の美化(岡田船待のダンボールの処理) ○長根浜公園の整備(花壇を美しく) ○旧校舎、使われていない民宿等の有効利用 ○宿泊施設など各施設の老朽化対策 ⇒事業者への押し付けは出来ない。行政への支援を要望する形であれば可。 ○全島バリアフリー化(バス停・メインロード・観光施設等、高齢者にやさしく) ○公共トイレ周辺の照明を明るく ○貝の博物館跡地をサンドスキー場に ○キャンプ場の拡大・整備 ○割安な宿泊施設の整備(スポーツ合宿等) ⇒民業を圧迫しない配慮が必要 ○弘法浜にマリンスポーツができる場所を整備(若者向け) ＜産業振興＞ ○乳用牛観光活用(教育ファーム指定検討を含め観光的利用促進) ＜イベント＞ ○バナナボート、シーカヤック、シーウォークなど ⇒事業者判断(起業しやすい環境を整備) ＜交通＞ ○バスやレンタカーの長期利用優遇サービス
中長期対策（4～10年）	＜各種誘致＞ ○自然エネルギー事業者の誘致(土地買上げの面では短期対策) ○外国人観光客を呼び込む(有名プロカーによるネット配信・ガイドブック掲載) ＜施設整備＞ ○大島の花木を使用した公園・散策道の整備 ○被災地道路脇にオオシマツツジの植栽(被災者の協力が前提) ○三原山山頂近くの山肌の有効活用 (元町の歴史とも絡めジオ活用・防災と観光の視点で) ○今回の災害のメモリアル的な場所、防災教育の資料とともに整備 △三原山の傾斜地にロープウェイ・ケーブルカーの設置 (電力は太陽光パネル利用)復興した姿を見せるため ⇒景観上、疑問の意見あり。 ○釣り場、遊泳場の整備 ○かつての三原山登山道、神津島天上山のようなトレッキングコースの整備 ○温泉施設 ○茶屋の復活 ＜イベント＞ ○椿→桜→つつじ→あじさい→椿まつりと「花まつり」へイベント期間の延長 ＜移住・定住促進＞ ○空家・農地のあっせん事業の推進 ○地域おこし協力隊の定住化 ○離島の良さ(丸ごと自然が何より魅力)を活かして、都会で疲れた人、田舎暮らしをしたい人が移住しやすいシステムの構築 ⇒空家対策で魅力的な住まいのあっせんなど ○移住希望者(就職場所の紹介など) ＜交通＞ ○海のルートをアピール(例:海のふるさと村) ＜その他＞ ○災害列島・日本の見本となるような復興が夢	＜接客向上＞ ○おもてなしアドバイザー(島民)の設置 ＜地産地消＞ ○島の農産物・魚などが島内の公共施設、学校、老人ホームで使われて、島内で循環する経済を構築 ＜施設整備＞ ○被災地の公園化(観光資源としてPR) ○被災地の土地利用: ジオパークの視点から観光利用(一部に椿植栽) ○椿公園を整備し、椿の実・油を事業化 ○公共トイレ等の電気設備、ベンチの設置等の整備 ○安心して釣り、海水浴が出来るよう、管理を行う ○御神火温泉を改築(箱根小湧園ユネッサンのように) △宿泊施設の増加を図る(貸別荘を含む) ⇒事業者の判断による。営業が成り立てば投資は進む。 ＜移住・定住促進＞ ○移住者用の住宅設置、土地の提供(借地) ＜産業振興＞ ○漁業再生のため、藻場の再生を進め、島の魚介類を提供 ○現在無駄になっている大量のどんぐりや椿の実を飼料に利用し、大島特産のイベリコ豚の生産 ＜交通＞ ○交通体系の充実 ○海のふるさと村に行く手段として、元町港、岡田港、漁船で送迎(船底を透明にして海中が見えるようにする)町、都で船を造り、漁協へ委託 ＜その他＞ ○人口増加へ具体的な対策を講じ、地元の間人がいきいきと海らせる島を目指す